

## イスラ ムにおける崇 の精神（その2）：礼 と断食

:

明:イスラ ムにおける礼 の精神と目的についてより しい 明と、断食の精神について。

目:[事 行 とその 践スラ ム的モラルと](#)

より: アブ "アル=アラ "マウドウ ディ (IslamRelgion.com 集)

ED4 Jun 2012

集日 04 Jun 2012



にも まれず、またそれを する人もいないのに、ムスリムが礼 を守るのはなぜでしょう？ それは、神が常に彼らの礼 を ているという意 からではないでしょうか？

彼らに、重要な仕事やその他の作 から去らせ、礼 のためにモスクに向かわせるものは何でしょう？

彼らが温かい寝床を夜明け前に去り、午 の い日差しの中モスクへ向かい、仕事 の しい を けて礼 堂に向かうのはなぜなのでしょう？

それは 感、つまり、彼らが主への 任を果たさなければいけないという意 以外の、何も のでもありません。なぜ彼らは、礼 中に いを犯すことを怖れるのでしょうか？

それは彼らの心が神への畏怖で たされ、彼らは、私たち全 が 判の日に神の前に立ち、私たちの人生について裁かれるということを知っているからです。

考えても てください。礼 をすること以上に、モラルと精神の において れたものがあるでしょうか？

これこそが人を完全なムスリムにする なのです。礼 がムスリムに、神との契 を思い出させ、彼の信仰を新たにさせ、最 の 判の日への思いを保持させるのです。それによって 言者（彼の上に神の平安と祝福あれ）に うことができ、彼に与えられた を果たす を受けられるのです。

これは かに、彼の をその理想へと近づけるための しい です。 いなく、その人が彼の、主に する 任を常に念 においており、全ての世俗的な しみの上に彼の宗教を置き、礼 でその 持ちを常に新たにしていくことができるなら、彼が、心から避けたいと っている 神の怒りは避けられるでしょう。彼は人生の全ての面において、礼 に 日忠 に ったように、神の法を守りながら生きていくことができるでしょう。こういう人は、罪や虚 を犯す危 にさらされたときも、神への畏怖からそれを避けるよう努力するので、他の活 分野でも信 を置けます。もちろん、そのような の でも、 いを犯すこともありますが、それは彼本人の内在的な欠 なのです。

そして、ムスリムは、特に金曜礼 のときは集 で礼 をしなければなりません。これによりムスリム同士の 情と理解が生まれ、 力と同胞 が育まれるのです。ムスリムたちは皆、集 で礼 を行う事から同胞 が芽生えると言っています。礼 はまた平等さの象 です。全てのムスリムが、 富の差、身分の い、教育、人 の い なく一列に び、彼らの主の前に ずくのです。また礼 は、自制心と ばれたり ダ への忠 を教えます。つまり礼 によって、これらの美 を学び、 人として、そして 体の一 としての かな生活を 展させることができるのです。

以上は、 数にある礼 の のごく一部です。これらの を得ようとしなければ、自分たちが 者になるだけです。もしムスリムの中で礼 をしない者をつけたら、それには二つのことが考えられます。つまり彼らは礼 を自分たちの と 付いているか、もしくは 付いていないかです。もし前者であるなら、彼らの信仰は 善に ちたものです。なぜならアッラの命に背くということは、かれの 威を めていないということになるからです。 者なら、かれの 威を めていることにはなりますが、それでもなおその命に背くというのであ

れば、この地球上で最も信用できない人 の一人であるというだけのことです。世界で最も 威ある主に背く事ができるなら、他の人 に して背くのは でしょう。欺 が社会を覆うとき、全ては歪んでしまうでしょう。

## 断食

礼 は一日に五回することになっていますが、ラマダ ン（太 の9月）は一年に一度の です。この一ヶ月 、日の出から日没まで、たとえどんなに美味しそうな食事が目の前に出されても、どんなに喉が いていようとも、ムスリムは一切の 食を断ちます。なぜ彼らは自ら、このような辛そうなことをするのでしょうか？

それは、神と 判の日への信仰と畏怖から来るもの以外の何でもありません。この断食のときは常に、ムスリムはその情念と欲望を抑え、神の法の 大さを体で表 するのです。この一ヶ月の断食を り切る 感と忍耐は、ムスリムの信仰を めます。この月の苦 と が、生活の 状と向き合い、残りの一年を主の意思に仕えるものにするよう、彼らを えるのです。

また の 点から てみると、断食は全てのムスリムに多大な影 を与えます。その社会的地位に なく、全てのムスリムは断食をしなければなりません。そのことで、全ての人々が平等であるということが され、そのために次第に同胞 が生まれてくるのです。ラマダ ンの は、 は潜み、善が表に出され、全体の が信仰と に ちます。この まりは、ムスリム自身のためになるものです。この を守らない者は、他の においても信用を置けません。しかし、ラマダ ンの に公の で 食する者もいます。この人たちはアッラ からの命令を全く意 しておらず、彼らの 造主であり、扶 者である御方に して りを述べる者です。それだけではなく、彼らはイスラ ム共同体の仲 ではなく、全く ない人たちだと自ら示しているのです。神から与えられた命令と信 において、このような事ができるのは 善者たちだけなのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/647>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。